

・雨でも休まず、254回、255回・

### 「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

・定例活動：2月 1日（第一日曜日）：今月から「協力協約：中里山整備」に入る。  
担い手育成、技術向上を兼ねる。参加費400円。

作業は午後1時まで。2時から「小原宿活性化推進協議会・会議」  
小原町の人々と地域活性化の勉強会に参加する。

・定例活動：2月15日（第三日曜日）：若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動  
参加費400円

.....

- \* 注意事項1：初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ
  - ・服 装：汚れても良い服装、着替え・滑らない足元
  - ・持 参：飲料水、成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、自分の食器
- \* 注意事項2：危険管理・救急体制：森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

### 環境相：「緑の雇用提案」：温暖化対策で100万人

齋藤環境相は6日、米国のオバマ次期大統領が提唱する「グリーンニューディール（緑の内需）政策」の日本版として、地球温暖化対策への投資を広げることで新たに100万人規模の雇用を創出する構想の策定に乗り出す考えを明らかにした（朝日新聞・1月7日号朝刊一面）

米国発の金融大恐慌は、世界を巻き込んでりょう原の火のように広がっている。我が国もその例外ではない。この正月は職を失った人が炊き出しを受けたり、子供連れ夫婦が公園をさま迷っている姿などが映像で流されていた。

政府が「温暖化対策として100万人：緑の雇用」提案するなら、荒廃に悩む森林の保全・再生に手を差し伸べて欲しい。当会は、森林に特定したNPOだが、“雨でも休まず・・・10年の活動歴を持つ。作業能力としては未熟だが、森林の公益性・多様性に関する想いは、真剣その物である。いささか自信過剰過ぎるが、むしろ、生業として林業に携わる林業者より、森林に対する知識・対応力は優れていると確信している。

柔軟で迅速な発想と行動力が当会の持ち味である。短期の雇用創出と中期の森林担い手育成、長期の「荒廃の水源森林の保全・再生」の取り組みは、津久井地域の人々も理解して力を貸してくれると確信している。森林が大都市相模原市に隣接し森林率58%に達する相模原市こそ、環境相の提案を受けて立つべきだ。相模原市は、市民団体／森林NPOとも協働して森林再生を果たし、「神奈川県発・相模原市発・・・全国へ、世界へ」発信の方向に進む時が来た。

日時： 1月16日（金）9：30～15：00，

集合場所：大磯改札口9：30あるいは湘南平パーキング：10：00

活動内容：地元の岩澤由美さんを中心に、10名ほどのボランティアが毎月第4土曜日に、放置された広葉樹林に下刈りを中心とした森林（里山）保全作業を行っており「NPO 法人緑のダム北相模」より当会への参加要請がありました。

今年より平日も加えて月2回の作業を行う予定です。当面は共同作業を通じてどの様に参画できるかを模索しようとする予定です。

最近若い女性の参加者が増えてきて活気が出てきました。百聞は一見に如かず、多くの参加をお待ちします。ご希望の方は ML あるいは電話（090 - 3472 - 9741）で佐藤（憲）まで。



湘南平展望台から南方・伊豆方面



柔らかな日差しの下で運営方法を相談する

4年目に平塚の七夕祭りに参加したおり、国道1号線の真向いに、格好の良い森の塊を見た。訪ねて見ると「湘南平～八俣山（浅間山）～高麗山」と続く、相模湾も山裾を洗う近さにある相模平野の小島のような位置・地形の山塊であった。

知りあった平塚市在住の岩澤由美さんをお願いして、ここに「湘南の森」を立ち上げて貰った。岩澤さんもこの森が痛く気に行って黙々と、“雨でも休まず・・・”この3年活動を続けてくれた。

昨年、全日本インストラクター会・神奈川会の佐藤憲隆さん（神奈川会理事）と知り合って運営をお願いした。佐藤さんも人後に落ちぬ自然保護意識の持ち主で、“喜んで”と協力してくれることになった。

「緑のダム湘南の森」の基地・湘南平は、JR大磯駅から湘南平まで徒歩30分の距離で、元々が平塚市管理の森林公園が放置された状況にあるから、平塚市も佐藤さん達の入山には快諾してくれて幸先の良い再出発になっている。

ここは地理・地形・交通の便としてこれ以上、望めない条件にある。何れ、北相模を凌駕する森林活動地になっていくだろう（石村記）

今日は今年初めての定例活動でした。  
森の中はじっとしている事が出来ないくらい寒かったです。

活動内容は午前、午後を通して集会場の近くに積んであった木を木材として使えるように乾燥させるために移動させました。

その際に、間伐作業を安全に行うために用いているチルホールという道具を使いました。以前に緑のダムでこの使い方の講習会を受けていたので、学んだことを生かせ、また身につけることが出来てとても充実した活動となりました。



最後に大きな木を移動するとき、川田さんの計算の下ワイヤーとロープを使って倒したら、見事に予想したと通りのところに木を倒すことが出来ました。これにはメンバー皆が驚き、感動しました。

今回の作業を通して、枝打ちの方法やロープの上手な使い方など数多くのことを学びました。緑のダムの方が話してくれることはとてもためになり、活動が楽しくなります。なので、これからもより多くのことを学び、活動に生かして生きたいと思います。

.....

この材は、砂防ダム工事で出たもので、廃棄処分にするということから当会が公共のために有効に使う方法を考えるからとの条件で払い下げてもらった。

ところが写真のように大量の大径木で、これの移動と腐らないようにするための皮むきが大仕事。また、何に使うかも問題。仲間たちが鳩首会談で決めたのが、甲州古道用の休憩用ベンチ。「ベンチ作りなら俺に任せて」と松尾会員が手を挙げてくれた。用途がハッキリしたので、移動作業も苦にならない。置きたい場所は、古道筋や小原本陣、小原の郷、景観周遊道もあるから問題解決、当会仲間は常に良い知恵を出してくれるから、事務局は何時も大助かりをしている(石村記)



(新年の森)

新年第一回の活動日。雪になりそうな曇天の森に35名が集まった。毎年恒例のことだが、森の神様と地主さんの鈴木様に新年のご挨拶から始める。ところが、林道坂道がアイスバーンになっていて加藤学生の車が坂の途中でスリップ・ストップ。ロープをかけて全員でエンヤコンヤと引っ張ったら、ロープがプツリと切れてしまった。ロープを結び直し、お湯を沸かして氷を溶かして脱出した。早々に冬山の車救出成功の大イベントとなって大満足。

そんなで時間を取ってしまっている内に鈴木様が森に上がってこられた。そこでまずは、鈴木様に「こんなに自由に森を使わせて頂いていること」を添えて全員で新年のご挨拶。次いで、森の入口の祠に祭ってある森の神様に昨年の無事故と本年の意義ある活動と祈念して全員、二礼二拍手一礼の新年のご挨拶で新年儀式を無事、終了した。

今日は午後から新年会なので、作業は神事の軽作業と言うことで、基地周辺やお花畑の整理整頓と一部の会員たちは、新しく購入した長柄枝打ちノコの枝打ち実習にと森に入った。(以上、石村・伊藤記)

午後からは新年会が行われた。

昨年に引き続き、緑のダム伊藤さんとForest Nova 滝澤で司会を務めた新年会。緑のダムの中でも、Forest Nova の中でも、普段活動はしていても一人一人が何を思って活動しているのか？なかなか話をする機会がなかったように思う。

そんな思いから、お酒の力も借りて「なぜ、森なのか？」「森づくりの夢は？」などそれぞれ森に対する思いを語ってもらった。みなさん熱かった(笑)

途中、石村すず子さんに、10年間に及ぶ炊き出しを感謝して、会員から募った寸志から贈り物をお渡しした。

緑のダム丸茂さんが、石村さんご夫妻は緑のダムを含めた大家族のお父さん・お母さんだといっていたように、これからも人間関係の絆を大切にしながら森づくりの活動に励んでいきたい。笑いの耐えない会になってほっとしました……。大成功！！



二藤学生は卒業後、森林研修所に住所する。その上で林業実務を積み上げて「緑のダム」に帰って来れる日が来ることを考えていると言った。

## 間伐材を生かした

### 「第2回：森づくり・ものづくり」コンテスト

1月16日、当会と相模湖商工会が共催するコンテストの審査会は、小田原健氏を審査委員長に6名の審査委員で、相模湖商工会館会議室で行った。応募は、全国から226点(去年は161点)が集まった。

作品のレベルは、昨年より数段高くスケールの大きなものが多い。

審査は順調に進んで、1)間伐材活用部門 2)ランドスケープ部門 夫々、最優秀賞各1、優秀賞各2点、佳作各5点を決めた。これらの中から製品化できるものは製品にする。間伐材活用を広く社会に訴えることを目的としている。



応募数の多さ、全国から集まる「森づくり・モノづくり」への関心の深さは、森林NPOとして大変、喜ばしいことだ。今後も継続してコンテストを開催するが、森林地域の活性化に繋がることであるならやりがいのある活動だと思う。(報告 石村)

### 神奈川県：「木つかい運動」

昨年11月14・15・16日開催の同広報活動は、横浜緑区・鴨居ララポートで開催した。

当会からは「木を使うことは、森を守ること」をテーマに“積木”を出品した。

当会の“積木”は、FSC 認証材で作ったもので、FSC ガイドラインの指導する「環境と経済が調和共生する持続的な森林経営の具現化」をも訴える事としている。



神奈川県は、平成19年度から20年計画の「水源環境の保全・再生」政策を実施しているが県内約10万haの荒廃の森林を子孫に恥じない健康林にして残そうと大車輪で整備に取りかかっている。ちょっと心配なのが一期5ヶ年計画の12の事業の中に森林の経済性創出の施策が無いことだ。持続的森林経営のためには、森林環境の整備は県産材が売れるという仕組みを作って経済性を生み出す、即ち県産材生産が消費に繋がって循環する仕組みを作らねば成らない。

この会場の入場者は、3万人にも及んだと言うことで広報活動は、大成功で終了した。県担当者のご苦労も図り知れない。会期中、松沢神奈川県知事も当会出品のブースに立ち寄られ、当会の森林活動を激励して下さった。(石村記)

## 本年度、初めての「経営運営会議」：1月9日（第二金曜日）

・・・活動開始後、満10年が経過する、次の10年を考える・・・

去る9日（第二金曜日）定例化している月次経営運営会議は、マルモ出版本社（渋谷）で運営委員7名を集めて開催した。今年は、当会が活動を始めて11年目に当たり、会活動の意義・内容・規模において活動発足当時1998年、法人化した2002年当時とは、比較にならない程、変化している。

この10年は、森林NPOとしてどのような活動が、社会に認められ求められるかを課題に考え行動してきた。その為、基本理念を「森林破壊と言う負の遺産を子孫に残さない」とし、行動規範を「FSCのガイドライン」に置いた。日常活動は「急がず、無理せず、休まず、楽しく、ポチポチと・・・」とし、台風の日でも休まない（山に入れない日は勉強会に切り替え）ことで「継続は力」とし今では、信用ある団体と認められるに至っている。

この日の「経営運営会」では、“向後の10年をどのような森林NPOに向かうか”をテーマに話し合った。結果、“エコ（ロジック：環境）とエコ（ノミー：経済）が共生・調和する持続的森林経営の途を探す”という方針を採択した。具体的には、「細切れ規模になっている私有林を一定の広さにまとめ上げて（団地化）生態系など森林環境を壊さず、合理的な林道を開設し機械化できる集約施業の途を探そう」と言うことだ。

今一つは組織の再編を進めることとした。そして、森林フィールドが大きくなった現況で事務局が世田谷にあるのは不自然だ。森林現場：相模湖に事務局を持って行きべきと言う提案が出た。

また、現在の活動は、相模川流域の上流・中流・下流をつなぐ（小原の森、若柳の森、緑のダム北鎌倉、緑のダム湘南の森、名栗さわらび隊）点が線になっており更に、川崎市や相模原市にも面となって広がりつつある。そして参加者は、家族連れから、小学生、高校生、大学生、年配者まで繋がっている。年齢的な横の広がりも、考えてみようという提案が出た。

活動11年目を迎えて、活動に止めず“運動”に発展させる考えはないかという要求もある。当会は、現場重視の団体であるから、どのようにすれば“森林再生運動”に発展できるかは、なかなか難しい問題だ。経営運営会は、何とか今期中には、理事改選を含む定款変更結論を出して、第七期の通常総会に提出できるようにして欲しい。(石村記)

「Forest Nova」が第6回大学生環境活動コンテストで入賞！！

Forest Nova 麻布大学4年 二藤 政毅

昨年の2008年12月22～23日にかけて東京電力(株)とエコ・リーグが共催の「全国大学生環境活動コンテスト：通称エココン」というものが開催されました。このエココンでForest Nova はなんと参加団体60団体中8団体しかもらえない「入賞」を手にすることができました！

このエココンは全国の環境活動を行っている大学生を対象とし、団体同士が活動を発表し合い、議論し、それを社会人の選考委員が審査してグランプリを決めるというものです。

Forest Nova は去年もこのエココンに参加しましたが、その時は自分たちの活動も確立できておらずこれからの団体という認識が強く2票差で予選落ちをしてしまいました。だからこそ「自分たちで施行計画を立てて作業の実施をした」「時計の販売数も大幅に伸ばすことができた」など実績を残してきた今年は、行ける！グランプリまで行ってやる！というリベンジ精神で臨みました。



その強い気持ちもあったせいかな予選では審査員の方たちに「実践力」「継続力」「連携」という部分で大いに認められ、決勝に進むことができました。決勝では500人以上は入りそうな大ホールで発表を行いみんな緊張気味でしたが後輩たちも堂々と一緒に発表をしてくれました。結果は残念ながらグランプリではなく入賞で終わってしまいましたが、このエココンでみんなは普段の活動では得られないことを本当にたくさん得ることができました。

そしてエココンを振り返った時に思ったのは、この様な結果を出すことができたのもやはり普段協力してくださっている緑のダムの皆様のお力があってだということ。礼儀も分からない様な若者を暖かく受け入れてくださって、知恵や技術を託し、未来の担い手として大いなる期待までして頂き本当に感謝しきれません。エココン当日も石村さんと佐々木さんには会場まで応援に来て頂いて、佐々木さんにいたっては発表者専用が一番前列の席にまで私たちの発表の写真を撮りにきてくれて、本当に皆さんの暖かさを強く感じました。

エココンでさらにパワーアップした Forest Nova は今年1年も期待に答えるために、自分たちの夢のため更にペースを上げて走り続けていきたいと思っておりますので、今年1年よろしくお願ひします！



## 当会の新しい挑戦：林地団地化・集約施業

内には課題が山積みだが、“雨でも休まず・・・”、この10年で森林NPOとして信用の礎を築いてきた。この礎を足場として次の10年にどう挑戦するか。

「県民会議」で神奈川県には、森林の経済性創出を強く訴えている。訴える以上は、当会自らが経済性創出を形にして提示する責任がある。そこで、FSC 認証取得（2005年）以来、そこに焦点を合わせて様々な試みをしているが未だ、確たる成果を得ていない。

一昨年来、念頭にあるのは「林地団地化・集約施業」である。昨年9月、これを採用している群馬・多野東部森林組合を森仲間等、11人で視察して来た。haあたり100mの林道を通し作業道を50m作って、大型林業機械を入れて材の搬出コストを下げることを実施し、森林所有者にhaあたり13万円の還付金を出しているそうだ。

これまでFSC 認証取得と小原本陣の森80haに挑戦してきたが、いずれも出来もしない事を言う“大風呂敷”と中傷されたが、FSC は実現したし、小原本陣の森は、力を合わせる地主さんも現れて、その40%が美林に変わり、森林整備委託を約25%受けている。結果、65%の森林整備が可能となっている。あと35%の地主さんの了解を得られれば「林地団地化・集約施業」の可能性はある。今は大風呂敷でなく“またか！、ご愛嬌のドンキホーテ”と呼ばれている。

ところで、森林NPOの作業技術は稚拙で作業量はプロ林業者の100分の1もあろうか。ボランティア活動だから、交通費等、全て自腹で（参加費まで取られて）活動も月2回、10時～15時の正味活動は8時間に過ぎない。こんな森林NPOが「集約施業」などできるだろうか。これを解決してくれるのが今の森林仲間だ。彼らは極めて柔軟な発想と行動で、新しい知恵と解決策を編み出してくれる。「林地団地化・先ず80ha」を仕上げ、経済効率の実現できる800haに挑戦する。そして予ねて考えている、国内認証SGEC取得も視野にある。

何故、このような事に挑戦するかと言えば、自分が生きている証にしたいのと市民団体・森林NPOがこれを具現化すれば、多くの一般市民が立ち上がってくれると思うからだ。

当会発足当時、月尾嘉男先生（元総務省審議官、現東大名誉教授）から「森林ボランティアは世論を動かせる。やって見ろ」と発破をかけられた。大きなことを言っているようだが、もっと遥かに大きなことを具現化した人々がゴマンといるじゃないか。

.....

活動のモットー : 急がず、楽しく、無理せず、休まず、ポチポチと・・・  
そして、沢山の参加で森は良くなる。

名 称 : NPO法人緑のダム北相模

事 務 局 : 154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9

発行人 : 緑のダム北相模・運営委員会 T&F 03-3411-1636

H P : <http://midorinodam.jp> E-mail : [info@midorinodam.jp](mailto:info@midorinodam.jp)

協働団体 : 神奈川県（企画部土地水資源対策課、環境農政部森林課、県央地域県政総合センター森林保全課） セブンイレブンみどりの基金

ご支援の団体 : WWF・JAPAN, イオン財団、市民社会チャレンジ基金、東急コミュニティ J F E メカニカル, 神奈川県建具協同組合、生命の森宣言・東京